

学校と地域を結ぶ

栃木県では、平成26年4月から栃木県内全公立学校に地域連携教員が設置されています。



- ①地域ぐるみの防災訓練「災害発生時を想定した地域の方による炊き出し」（宇都宮市立一条中学校）
- ②地域の保存会による文化と伝統の伝承「奈佐原文楽クラブの指導」（鹿沼市立北押原小学校）
- ③近隣の高校（真岡北陵高校）と連携し、小学生と高校生が一緒に農園活動（真岡市立大内西小学校）
- ④地域ボランティアの方々と落ち葉掃き（栃木市立大平中学校）
- ⑤矢板市「福祉まつり」での中学生による介助ボランティア（矢板市立片岡中学校）
- ⑥学校と地域の協働による行事「箒川リフレッシュ大作戦」（那須塩原市立塩原小中学校）
- ⑦学校ボランティア出前市「ふれあい学習会」での水鉄砲づくり（足利市立名草小学校）
- ⑧近隣小学校と協働した稲刈り体験（県立矢板高等学校）
- ⑨PTA対象研修会 親学習プログラム「思春期の子どもとの関わり方」（県立栃木特別支援学校）

新しい学習指導要領では、

学校と社会の連携・協働がより求められています

～社会に開かれた教育課程の実現～

「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にし、社会との連携・協働によりその実現を図っていくことが求められています。

地域連携活動では

子どもたちにとって・・・

- 「生きる力」が育成される
- 地域への愛着が芽生える
- 学力向上の基盤をつくる
- 社会性が育まれる

地域や保護者にとって・・・

- 生涯学習活動が充実する
- 地域コミュニティが活性化する
- 地域の教育力が向上する

教職員、学校にとって・・・

- 地域への理解が深まる
- 地域との協働につながる
- 教育活動の内容が充実する

☆地域への理解が深まり、より効果的に地域の教育資源
(ひと・もの・こと)を教育活動に生かすことによって、
子どもと向き合う時間が増えることにつながる

等の効果が
期待されます



©栃木県 とちまるくん

○地域連携活動の4つの視点から活動の充実を図りましょう

子どもの発達の段階や各教科等のねらいを踏まえ、学校の教育目標を達成するために真に必要な活動となるよう、各学校の状況に合わせて見直しながら取り入れていきましょう。

【地域の人材を生かす】

- 学校支援ボランティアによる活動
 - ・学習支援：読み聞かせ、各教科等への支援
 - ・環境支援：遊具の塗装、花壇・図書室の整備、HP作成、防犯パトロール 等
- 企業や高等教育機関等との連携
 - ・キャリア教育、出前授業 等

【地域の資源を生かす】

- 地域資源を活用した校外学習
 - ・文化財、職場体験、学校間交流 等
- 社会教育施設の活用
 - ・公民館がもつ地域情報の活用
 - ・図書館、博物館等での調べ学習や体験学習
 - ・青少年教育施設等での体験学習 等

学校

【学校の力を生かす】

- 学校の教育力を生かした活動
 - ・家庭教育学級、PTA研修、親子で物作り
 - ・学校開放講座 等
- 学校施設を生かした活動と交流
 - ・防災キャンプ、宿泊体験
 - ・地域住民対象の合唱講座等の開設と児童生徒との合同学習 等

【地域へ参画する】

- 地域でのボランティア活動
 - ・清掃・福祉・文化活動 等
- 近隣・異校種、地域の団体との連携
 - ・地域一斉あいさつ運動
 - ・地域の祭りへの参加
 - ・地域探検、安全マップづくり 等



○より効果的・効率的な地域連携活動を目指して

～自校の活動をチェックしてみましょう～



チェック1：「校内の体制づくり」について

□〈全体計画や年間活動計画の点検・見直し〉

PDCAサイクルに基づき改善を図り、その中で真に必要な活動について検討しています。

□〈校内研修の実施〉

研修計画に位置付け、自校の取組状況や課題等について全教職員の理解を深めています。

□〈チーム体制の確立〉

計画作成、連絡調整、記録・報告等、役割を明確に分担しています。

□〈環境の整備〉

コーディネーター※ やボランティアが相談したり活動の準備をしたりできる部屋があります。

※ コーディネーターは、連携活動を行うときの地域の窓口として、地域の人材等の情報収集、ボランティアとの連絡調整等を行います。各学校や行政の実情に応じて、設置されています。

□〈コミュニケーションづくり〉

掲示板や全校集会等でコーディネーターやボランティアの方の名前や活動を紹介しています。当日の活動や来校予定の方の名前も、分かるようになっています。

チェック2：「連絡調整や情報収集・発信」について

□〈コーディネーターへの理解促進〉

自校のコーディネーターの名前や役割等について共通理解しています。

□〈ニーズの把握・共有〉

年間を通して、連携が必要な活動について一覧表にまとめ、コーディネーターと情報共有しています。

□〈打合せ〉

学校全体で共通した様式の打合せ用紙やデータを活用しています。

□〈地域の情報共有〉

地域の文化財、地域行事、社会教育施設、自治会、企業、ボランティア団体等について情報を収集しています。

□〈情報発信〉

学校の様子や活動について、学校ホームページ、学校だより、授業参観等で保護者や地域へ定期的に発信しています。

チェック3：「活動の評価や継続」について

□〈評価の実施と活用〉

活動の効果や改善点等について、児童・生徒、教員、保護者、地域の方等の様々な視点から評価を実施し、次年度に生かしています。

□〈情報の蓄積〉

活動の継続に向けて、活動内容や地域情報等の必要な情報を蓄積し、共有しています。

□〈情報交換の機会〉

コーディネーターやボランティアとの情報交換の機会をつくり、活動の充実に努めています。

○地域連携教員研修会「より効果的な地域連携活動を目指して」から 活動事例の紹介

平成31(2019)年1月28日実施

各校の取組について、ABCの3つのポイントにまとめて紹介します。

- A : 学校における主な地域連携活動の紹介
- B : 効果的な活動のコツ
- C : 地域連携教員として心がけていること



栃木市立大平中央小学校



子ラボチャレンジ

- A : ◇「子ラボチャレンジ」… 夏休み中の2日間、隣保館を拠点に活動している地域の方や親父の会、学校運営協議会のメンバー等を講師として、講座を開催している。
- B : ◇「チーム中央」で取り組んでいる。子どもにとって、豊かな学びとなる活動であるかどうか、先生自身にも学びとなるか、そして、学校の業務改善につながるかという視点で活動を考えている。また、学校運営協議会や大平地区内での地域コーディネーターの方々の連携など、協力をいただいている。
- C : ◇計画について、年度始めだけではなく、年度途中でも先生方と随時確認し、共通理解をして進めている。 ◇担当学年へは、活動の様子の記録、HPへの情報発信をお願いしている。また、校長や教頭へ、活動によってはコーディネーターへ活動後のふりかえりをお願いし、学校全体で取り組めるようにしている。（地域連携教員：曾根 美幸教諭）

- A : ◇「3年生総合的な学習の時間（日光市では「日光みらい科」）での足尾の特産品作り」… なつおとめ（県特産のいちご）の栽培、かんも君（日光中キャラクター）クッキー作りを様々な業種の方々、社会福祉法人団体等とコラボレーションして行っている。
- B : ◇ 地域連携教員、日光みらい科（総合的な学習の時間）担当、キャリア教育担当がねらいに向かって一致して活動をしている。また、地域コーディネーターのほか、社会福祉協議会と一緒に授業を組み立てている。
- C : ◇ 足尾の「まち・こと・ひと」を理解し、自ら地域を好きになる。また、意識して町の中へ出かけ、町の人と顔見知りになるよう努めている。 ◇お願いできることは地域の方にお願いする。 ◇地方新聞に記事にしてもらえるよう積極的に働きかける。新聞に載ることで地域の方々の学校に対する関心も高まる。 （地域連携教員：小倉 孝司教諭）

日光市立足尾中学校



クッキー作り講習会

県立馬頭高等学校



那珂川学産業体験 竹細工

- A : ◇「那珂川学」… 郷土への理解を体験的に深め、町の新たな魅力への気付きや発見、郷土への誇りや郷土愛の育成へつながっている。 ◇「水産科の活動」… 地域イベントでの実習製品の販売実習、小学生を招いての授業、地域企業との共同商品開発、水産試験場やなかがわ水遊園との共同研究等を行っている。
- B : ◇校外での体験活動等が、専門の指導者のもと安全に実施できること。また、生徒にとっては、学校生活とは違った観点から、様々な人たちに指導・評価を受けることで、新たな自己発見、自己肯定感が高まっていく。
- C : ◇地域との連携活動もかなり多くなっており、生徒や地域にもたらす成果と課題を検証しながら、継続や新規に取り組むべき事業について担当者とともに組織的に検討を行うようにしている。（地域連携教員：青木 信太郎教諭）

- A : ◇学校支援ボランティア養成講座「ましとくボランティアスクール」… 学校が地域に開かれ、大人も子どもも学びあえる場所になるように、H29年に開設した。全5回の講座（講話、実技、実習、ワークショップ等）を実施し、3回以上の参加で学校支援ボランティア「ぽんぽこ」に登録できる。本校の理解者、支援者を増やしていきたい。
- B : ◇以前から協力のあった企業・団体等とのつながりから活動を広げた。 ◇校内で相談支援部や進路指導部、児童生徒指導部等と連携し取組を広げた。 ◇芳賀地区的市役所、役場、教育委員会、図書館、道の駅、社会福祉協議会等に協力をいただいた。
- C : ◇本校教育や障害のある児童生徒について、一人でも多くの方に伝える。 ◇児童生徒が将来にわたって地域の中で生活できるよう、大きなビジョンを持って取り組む。 ◇地域のよさを知り、子どもたちと一緒に楽しむ。 （地域連携教員：小島 栄枝教諭）

県立益子特別支援学校



学校支援ボランティア養成講座